

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成23年7月21日(2011.7.21)

【公開番号】特開2010-14586(P2010-14586A)

【公開日】平成22年1月21日(2010.1.21)

【年通号数】公開・登録公報2010-003

【出願番号】特願2008-175668(P2008-175668)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

G 0 1 N 33/543 (2006.01)

G 0 1 N 33/545 (2006.01)

G 0 1 N 33/553 (2006.01)

G 0 1 N 21/78 (2006.01)

G 0 1 N 33/48 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/53 D

G 0 1 N 33/543 5 8 1 A

G 0 1 N 33/545 B

G 0 1 N 33/553

G 0 1 N 21/78 Z

G 0 1 N 33/48 G

【手続補正書】

【提出日】平成23年6月6日(2011.6.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

便検体中のヘモグロビンを測定する免疫学的測定方法であって、抗ハプトグロビン抗体を反応系中に共存させることを特徴とする、便検体中のヘモグロビンの測定方法。

【請求項 2】

免疫学的測定方法が、抗ヘモグロビン抗体を担持した担体と便検体抽出液とを反応させて生じる凝集反応に由来する光学的变化に基づく測定方法である、請求項 1 記載の測定方法。

【請求項 3】

光学的变化が、抗ヘモグロビン抗体を担持した担体とヘモグロビンの反応開始後、反応液の光学的測定を適当な間隔で 2 回行った時の測定値の差、又は抗ヘモグロビン抗体を担持した担体とヘモグロビンとの反応開始後の反応液の光学的变化率である、請求項 2 に記載の測定方法。

【請求項 4】

担体が金コロイド又はラテックス粒子である請求項 2 又は 3 に記載の測定方法。

【請求項 5】

担体が金コロイドである請求項 2 又は 3 に記載の測定方法。

【請求項 6】

抗ヘモグロビン抗体がモノクローナル抗体である請求項 2 ~ 5 の何れかに記載の測定方法。

【請求項 7】

抗ハプトグロビン抗体がポリクローナル抗体である請求項 2 ～ 6 の何れかに記載の測定方法。

【請求項 8】

光学的变化が吸光度変化である、請求項 2 ～ 7 の何れかに記載の測定方法。

【請求項 9】

光学的变化が500～550nmの吸光度変化である、請求項 5 に記載の測定方法。

【請求項 10】

抗ヘモグロビン抗体を担持した担体を含有する試薬及び抗ハプトグロビン抗体を含有する試薬を含んでなる、或いは抗ヘモグロビン抗体を担持した担体及び抗ハプトグロビン抗体を含有する試薬を含んでなる、便検体中のヘモグロビン測定用試薬キット。

【請求項 11】

担体が金コロイド又はラテックス粒子である請求項 10 記載のキット。

【請求項 12】

担体が金コロイドである請求項 11 記載のキット。

【請求項 13】

抗ヘモグロビン抗体がモノクローナル抗体である請求項 10 ～ 12 の何れかに記載のキット。

【請求項 14】

抗ハプトグロビン抗体がポリクローナル抗体である請求項 10 ～ 13 の何れかに記載のキット。